

パウロの第二回伝道旅行でのアテネにおける伝道箇所を読んでいきます。前回のところでは、道すがら「**知られざる神に**」と刻まれている祭壇を見つけたことに引っかけて、「**あなたがたが知らずに拝んでいるもの、それを私はお知らせしましょう**」(23節)と話を切り出し、ギリシアの市民たちが知らずに拝んでいるものを教えました。今日の30節以下では説教の結論に移っていき、パウロの説教の締め括りとそこでの伝道全体の結果について記されています。

ギリシア人たちが真の神を渴望しつつも「**知られざる神に**」と、神を捉え得なかった時代のことを、パウロは「**無知の時代**」と言い表しました。そのような時代を神は「**大目に見てください**」っておられた——異邦人における偶像崇拜の罪を見過ごして下さってたのです。がしかし「**今は**」はそうではない。今まではそうだったけれども「**今は**」違う。神のお扱いが決定的に変わったのだ。神がイエス・キリストをお送りくださったことによって——キリストによって真の神がはっきりと示された、そんな新しい時代が「**今**」来たのだと、そうパウロは語ったのでした。

この「**一人の方**」は「**この世界を正しく裁く**」ために選ばれた方で、死者から復活なさった——罪に打ち勝たれたイエス、その方である。それゆえ、「**どこにいる人でも皆**」、つまりどこでも全ての人も悔い改めるようにと命じられているのだと、そのように説いたのでした。今は皆、真の神に立ち帰るときが来た。これがパウロの説教の結論でした。

アテネの人々の反応が32～34節に記されています。ある者はパウロが語った復活の話を聞いて嘲笑い、またある者は「**それについては、いずれまた聞かせてもらうことにしよう**」と応えました。しかしその中に、パウロに「**付いて行って信仰に入った者も、何人かいた**」。宣教とは、こういうものなのでしょう。神は、宣教という愚かな手段によって信じる者を救おうと、お考えになられたのです(I コリ 1:21)。